備 前 市 事 務 事 業 評 価 シ ー ト

（平成21年度事業）

事業の概要						
事業開始年度		昭和49年		根拠法令・例規等	医療法	
総合計画	大項目	基本目標	02	健康でやさしさあふれるまちづくり	問合先 担当課（室）	保健課
	中項目	基本施策	02	健やかで生き生きしたまちづくり	職・氏名	健康係長・白髭由美子
	小項目	施策	06	健康づくり	電話	６４－１８２０
事務事業名			05	救急医療事業	このシート作成に要した時間	1.5 時間

事業の目的	
対象（誰・何に対して）	救急医療を必要とする市民
目的（何のために）	救急医療体制の充実により、救急患者に対する医療を確保し、健康で安心・安全な生活環境を整備する。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	救急医療を必要とする人が、いつでも適切な医療を受けることができる。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	救急医療事業	休日、夜間における重症救急患者の医療の確保を図るため、県南東部圏域の病院群及び和気医師会に対し、救急医療体制整備に伴う経費を負担する。	◎

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

決算額	事業費等	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
事業費	直接事業費	千円	3,282	3,264	3,241
	必要人員 人件費		0.06人 474	0.02人 176	0.01人 93
	事業費計		3,756	3,440	3,334
財源	国県支出金	千円			
	受益者負担				
	繰入金				
	市債				
	その他（ ）				
	一般財源		3,756	3,440	3,334
受益者負担比率		%	−	−	−

結果指標	結果指標名	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
	救急受診者数	説明	在宅当番医療機関受診者数＋二次救急医療機関受診者数		
	結果指標量	事業	3,081	2,349	2,724
	対前年比	%	−	76.2%	116.0%
	活動コスト	円	3,756,000	3,440,000	3,334,000
	単位当たりコスト		1,219	1,464	1,224

事業の成果

成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
救急患者受診者数	目標値（A）				
	実績値（B）	3081	2349	2724	到達目標値
	達成率（B/A）	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

成果指標設定の考え方・式や説明

救急医療の必要量および医療の質においては測定不可能であり、成果指標に値しないため

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい

事務事業の評価

			妥当性評価 <A～E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性 必要性	☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている	A
		☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	
		☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	
		☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている	
		☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	
		☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	
		☐ 事業開始当初の目的から変化してきている	
		☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	
		☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	
	市民ニーズ	☑ 市民・団体等から要望・要請が強い	

			効率性評価 <A～E>
効率性の評価	コスト手段	☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している	B
		☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある	
		☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある	
		☐ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい	
		☐ 受益者負担率は適正である	
		☐ 受益者負担率を見直す余地がある	
		☑ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	
		☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	
		☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	

			有効性評価 <A～E>
有効性の評価	目的達成度 市民参画度	☐ 成果指標の設定は適切である	B
		☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである	
		☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している	
		☐ 成果指標達成率は80%未満となっている	
		☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
		☐ 法定事務 ・ 内部管理事務 であり成果は求めにくい	
		☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している	
		☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

進行年度（H22年度）の改革改善内容

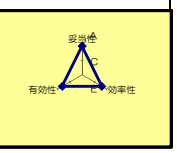
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：救急医療を要する患者が発生した際、直ちに適切な医療が受けれるよう、和気医師会への在宅当番医事業委託及び、県南東部圏域５市２町の協定による二次救急体制の整備に伴う経費を負担する。

総合評価

少子高齢化が進み、救急医療を必要とする市民は増加傾向にあると考えられる。市民の救急医療に対するニーズも非常に高く、引き続き、適切な医療が受けれる体制の整備が必要である。また一方で、夜間・休日の「コンビニ受診」が急増しており、適切な医療のかかり方への啓発を行っていく必要がある。

評価区分 <A～E>：B



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：引き続き関係機関と連携のもと、救急医療の体制整備に努める。